

LESSON NOTES

Advanced Audio Blog S4 #7 Top 10 Japanese Authors: Kenji Miyazawa

CONTENTS

- 2 Kanji
- 3 Kana
- 4 Romanization
- 5 English
- 7 Vocabulary
- 7 Sample Sentences
- 8 Grammar

7

KANJI

1. 宮澤賢治
2. 「雨ニモマケズ 風ニモマケズ」から始まる詩の作者が宮澤賢治です。
3. 知らない人はいないほど有名な冒頭部。実は、賢治の没後に発見された手帳に書かれていたメモなのです。詩として正式に発表された作品ではないにも関わらず、その内容が多くの人々の心に響いたために、現在では賢治の代表作の一つとされています。
4. また、このメモは病床で書き付けられたものです。彼は、故郷・岩手の地で過酷な自然条件と闘いながら懸命に稲作に従事する人々のために、農業技術を教えたり肥料などの相談に乗ったりと奔走しました。
5. そんな多忙な日々の中で彼は健康を害してしまいます。しかし、どんなに忙しくても病気であっても、賢治は文学活動をやめませんでした。
6. 疲労と肺炎のため37歳で亡くなったので、残された作品数は決して多くはありません。しかし、その独特の魅力あふれる作品群が高く評価され、死後、国民的作家の一人となります。
7. 最も著名なのは『銀河鉄道の夜』ですが、未完であるため物足りなく思う人もいるかもしれません。
8. そこで、初めて賢治の作品に触れるのであれば『注文の多い料理店』がオススメです。童話に分類されるこの作品には、都会の文明への批判や身勝手なブルジョア階級への皮肉がユーモアたっぷりに描かれています。童話というと子ども向けの話と思われがちですが、大人が読んでも十分にハラハラドキドキし、面白いですよ。
9. 1896年8月 岩手県に生まれる
10. 1933年9月 享年37歳

CONT'D OVER

11. 代表作 『銀河鉄道の夜』
12. 『注文の多い料理店』
13. 『風の又三郎』

KANA

1. みやざわけんじ
2. 「あめニモマケズ かぜニモマケズ」からはじまるうたの さくしゃが みやざわけんじです。
3. しらないひとは いないほど ゆうめいな ぼうとうぶ。じつは、けんじの ぼつごには っけんされた てちょうに かかれていた メモなのです。うたとして せいしきには っぴょうされた さくひんではないにも かかわらず、その ないようが おおくの ひとびとの ところに ひびいたために、げんざいでは けんじの だいひょうさくの ひとつと されています。
4. また、このメモは びょうしょうで かきつけられたものです。かれは、こきょう・いわての ちで かこくな しぜんじょうけん と たたかいながら けんめいに いなさくに じゅうじする ひとびとの ために、のうぎょう ぎじゅつを おしえたり ひりょうなどの そうだんに のったりと ほんそうしました。
5. そんな たぼうな ひびの なかで かれは けんこうを がいして しまいます。しかし、どんなに いそがしくても びょうきであっても、けんじは ぶんがく かつどうを やめませんでした。
6. ひろう と はいえんの ため37さいで なくなった ので、のこされた さくひんすうは けっしておおくは ありません。しかし、その どくとくのみりよく あふれる さくひんぐんが たかく ひょうかされ、しご、こくみんてき さっかの ひとりとなります。

CONT'D OVER

7. もっとも ちょめいなのは『ぎんがてつどうのよる』ですが、みかんであるためものたりなく おもうひとも いるかもしれせん。
8. そこで、はじめて けんじの さくひんに ふれるのであれば『ちゅうもんのおおいりょうりてん』が オススメです。どうわに ぶんるいされる このさくひんには、とかいの ぶんめいへの ひはんや みがってな ブルジョアかいきゅうへの ひにくが ユーモアたっぷりに えがかれています。どうわ というと こどもむけのはなしと おもわれがち ですが、おとなが よんでも じゅうぶん に ハラハラドキドキし、おもしろいですよ。
9. 1896ねん8がつ いわてけん に うまれる
10. 1933ねん9がつ きょうねん37さい
11. だいひょうさく 『ぎんがてつどうのよる』
12. 『ちゅうもんのおおいりょうりてん』
13. 『かぜのまたさぶろう』

ROMANIZATION

1. Miyazawa Kenji
2. "Ame ni mo makezu kaze ni mo makezu" kara hajimaru uta no sakusha ga Miyazawa Kenji desu.
3. Shiranai hito wa inai hodo yūmei na bōtōbu. Jitsu wa, Kenji no botsugo ni hakken sareta techō ni kakarete ita memo na no desu. Uta to shite seishiki ni happyō sareta sakuhin de wa nai ni mo kakawarazu, sono naiyō ga ōku no hitobito no kokoro ni hibiita tame ni, genzai de wa Kenji no daihyōsaku no hitotsu to sarete imasu.

CONT'D OVER

4. Mata, kono memo wa byōshō de kakitsukerareta mono desu. Kare wa, kokyō, lwate no chi de kakoku na shizen jōken to tataikai nagara kenmei ni inasaku ni jūji suru hitobito no tame ni, nōgyō gijutsu o oshietari hiriyō nado no sōdan ni nottari to honsō shimashita.
5. Son'na tabō na hibi no naka de kare wa kenkō o gaishite shimaimasu. Shikashi, don'na ni isogashikute mo byōki de atte mo, Kenji wa bungaku katsudō o yamemasen deshita.
6. Hirō to haien no tame 37-sai de nakunatta node, nokosareta sakuhinsū wa kesshite ōku wa arimasen. Shikashi, sono dokutoku no miryoku afureru sakuhingun ga takaku hyōka sare, shigo, kokuminteki sakka no hitori to narimasu.
7. Mottomo chomei na no wa "gingatetsudō no yoru" desu ga, mikan de aru tame monotarinau omō hito mo iru kamo shiremasen.
8. Sokode, hajimete Kenji no sakuhin ni fureru no de areba "chūmon no ōi ryōriten" ga osusume desu. Dōwa ni bunrui sareru kono sakuhin ni wa, tokai no bunmei e no hihan ya migatte na burujōa kaikyū e no hiniku ga yūmoa tappuri ni egakarete imasu. Dōwa to iu to kodomo muke no hanashi to omowaregachi desu ga, otona ga yonde mo jūbun ni harahara dokidoki shi, omoshiroi desu yo.
9. 1896-nen 8-gatsu lwateken ni umareru
10. 1933-nen 9-gatsu kyōnen 37-sai
11. Daihyōsaku "gingatetsudō no yoru"
12. "chūmon no ōi ryōriten"
13. "kaze no Matasaburō"

ENGLISH

1. Kenji Miyazawa

CONT'D OVER

2. The author of the poem that begins "Undeclared by the rain/Undeclared by the wind" is Kenji Miyazawa.
3. An opening line so famous that there is no one who doesn't know it. The truth is, this poem was discovered written in a notebook after Kenji's death. Even though it was never officially published as a poem, its content resonated in the hearts of so many people that today it is deemed to be one of Kenji's most famous works.
4. Furthermore, this notebook was written while Kenji was on his sickbed.
5. For the sake of the people of his hometown of Iwate, who, while fighting against the pitiless natural elements, worked themselves to the bone on the land harvesting rice, Kenji worked hard doing things such as teaching agricultural techniques and giving advice on fertilization.
6. In the midst of this extremely busy life, he sadly suffered a breakdown in his health. However, no matter how busy or how ill he was, Kenji never gave up his literary activities.
7. Due to his death at age thirty-seven because of exhaustion and pneumonia, the number of works Kenji left behind is not at all large. However, his work as a whole was highly lauded for its abundance of unique charm, and, following his death, he was made a national author.
8. His most celebrated work is "Night on the Galactic Railroad," but because it remains unfinished, some people may find it slightly lacking.
9. So if you're coming into contact with Kenji's work for the first time, I recommend "The Restaurant of Many Orders." Classified as a fairy tale, this work is full of criticisms of urban civilization and ironic humor directed at the selfish bourgeoisie. The words "fairy tale" tend to make people think that it's aimed at children, but I assure you that adults too will find it interesting and full of plenty of exciting moments.
10. August 1896, Born in Iwate prefecture
11. September 1933, Died aged thirty-seven

CONT'D OVER

12. Best-known works include "Night on the Galactic Railroad," "The Restaurant of Many Orders," "Matasaburo of the Wind"

VOCABULARY

Kanji	Kana	Romaji	English
批判	ひはん	hihan	criticism
従事	じゅうじ	jūji	engage in business, work
分類	ぶんるい	bunrui	classification, grouping
身勝手な	みがってな	migatte na	selfish, self-serving
肥料	ひりょう	hiryō	manure
文明	ぶんめい	bunmei	civilization
肺炎	はいえん	haien	pneumonia
奔走する	ほんそうする	honsō suru	to work hard, exert oneself (for)
過酷な	かこくな	kakoku na	severe, harsh
冒頭部	ぼうとうぶ	bōtōbu	beginning (of a film, book etc.), opening part

SAMPLE SENTENCES

<p>新しい政策は批判された。 <i>Atarashii seisaku wa hihan sareta.</i></p> <p>The new policy was criticized.</p>	<p>私の一家は、農業に従事している。 <i>Watashi no ikka wa nōgyō ni jūji shite iru.</i></p> <p>My family is engaged in agriculture.</p>
<p>ファイルを色で分類している。 <i>Fairu o iro de bunrui shite iru.</i></p> <p>The files are categorized by colour.</p>	<p>身勝手な行動を取るべきではない。 <i>Migatte na kōdō o toru beki de wa nai.</i></p> <p>You had better not behave selfishly.</p>

<p>畑に肥料を施した。 <i>Hatake ni hiryō o hodokoshita.</i></p> <p>I spread manure on the field.</p>	<p>古代文明の跡地を訪れた。 <i>Kodai bunmei no atochi o otozureta.</i></p> <p>I visited the site of an ancient civilization.</p>
<p>肺炎になってしまった。 <i>Haien ni natte shimatta.</i></p> <p>I caught pneumonia.</p>	<p>彼は紛争解決のために、奔走している。 <i>Kare wa funsō kaiketsu no tame ni funsō shite iru.</i></p> <p>He is working hard in order to reconcile the conflict.</p>
<p>幼少期の生活は、過酷だった。 <i>Yōshōki no seikatsu wa kakoku datta.</i></p> <p>My day-to-day life in childhood was harsh.</p>	<p>この本は、冒頭部が読者を強く惹き付ける。 <i>Kono hon wa bōtōbu ga dokusha o tsuyoku hikitsukeru.</i></p> <p>The opening of this book strongly attracts the reader's attention.</p>

GRAMMAR

Natsuko: オーディオブログ第四シーズン第7課 宮沢賢治

Yuichi: こんにちはゆういちです。

Natsuko: なつこです。今回紹介する作家は？

Yuichi: 宮沢賢治です。

Natsuko: では、早速聞いてみましょう。

Natsuko: ブログで紹介してあった、「雨にもまけず、風にもまけず」という詩ですが、これは、とても有名ですね。

Yuichi: そうですね～。あの一、ボクは小学校の頃に担任の先生に紹介されて初めて知りました。日本で教育を受けていれば、この詩を知らない人はまずいないんじゃないでしょうか。

Natsuko: そうですよ～。学校でやりますよね。ところで、ゆういちさん、気づきました？この「雨にも負けず、風にも負けず」の詩は、実はカタカナと漢字だけで書かれているんですよ。ひらがなが使われていないんですね。

Yuichi: ああ、はいはいはいはい。そう言われるとそうですね～。漢字とカタカナだと、ちょっと読みにくいけど、何か理由があるんですか？

Natsuko:実は、第二次世界大戦前、つまり、1940年頃までは小学校で一番最初に習うのはカタカナだったそうなんです。

Yuichi:へー、そうなんですか。今と違いますね。今は、ひらがなを最初に習いますからね。

Natsuko:そうですね。でも、リスナーの皆さんも多分ひらがなから最初覚えるんじゃないかと思うんですけど。宮沢賢治がが教育を受けた頃は、小学校では平仮名より先にカタカナを教えていたので、その影響でメモを書くときなんかは、カタカナを使うという人が多かったみたいなんですよ。

Yuichi:あ、なるほど。この「雨にも負けず」はきちんと発表された作品というわけじゃなくて、賢治のメモ書きなんですね。だから、カタカナで書かれていると。はい。納得しました！

今はカタカナを外国の言葉や音を書く時に使ってますよね？当時の人たちは、カタカナとひらがなはどうやって使い分けてたんですかね？

Natsuko:んー！鋭い質問ですね。ちょっと調べてみたんですけど、やっぱり当時も明確なガイドラインはなかったんじゃないかと思います。あの一、こういうふうに使分けましょうというようなきちんとしたガイドラインが出来たのは戦後でしょうね。

Yuichi:なるほど。

Natsuko:ですから、戦前は 漢字とひらがなで、書くととわりとやわらかい印象を与えて、漢字とカタカナを使うと、力強くて、フォーマルな感じを与える、その位の感覚だったみたいですね。

Yuichi:なるほど。こうやって場面によって使い分けていたんですね。

(宮沢賢治作品について)

Natsuko:このブログのテーマになっている宮沢賢治の作品は読んだことありますか？

Yuichi:はい、僕は「やまなし」という作品を呼んだことがあります。この作品は、大きな「なぞ」があるんです。主人公はカニなのですけども、この物語に「クラムボン」という言葉がたくさんでてくるんですね。で、例えば、『クラムボンはわらつたよ。』『クラムボンはかぶかぶわらつたよ。』というふうにまあ何回何回も色んな風に出てくるんですけども、実はこのクラムボンって分からないですよ、意味が？

Natsuko:そうですね。日本語じゃないですよ。

Yuichi:で、この「クラムボン」ってのは、実はまだ誰も分かっていないんです。たくさんの研究者の人が、色々考えているみたいなんですけども、未だに解明されていないということで、とても短い話なので、是非リスナーのみなさんも読んでもらえたらなって思います。なつこさんはどうですか？宮沢賢治の作品は。

Natsuko:私も宮沢賢治は結構好きで、たぶん有名な作品はほとんど読んでると思います。今の「やまなし」もそうなんですけども、宮沢賢治の作品って擬態語・擬音語とかがすごく面白いんですよね。独特のリズムがあって、詩も作品もそういう風に読むと、特に日本語を勉強している方というのは、あ、なんか面白い音を使うんだなと読めるんじゃないかなと思います。

Yuichi:オノマトピアということで、色々勉強になるかもしれませんね。

Natsuko:今、日本人が日常会話では使わないような音かもしれないですけどね。

Yuichi:ブログにも書いてありますが、ケンジは童話作家なので、物語の中で、よく動物や森、時には石や木の実や風も話したりするんですよね。

Natsuko:そうですね。でも、一口に子供向けだ、とはなかなか言い切れない、馬鹿に出来ないんですよね。テーマは子供向けとは思えないくらい深いんです。風刺だったり、教訓だったり……。色んな意味が込められているんですよね。

Yuichi:そうですね。方言が混じっていてちょっと読みにくい部分もあると思うんですけど、全体的に短い作品が多いので、日本語の読解力に自信のある方は読んでみるといいかも知れませんね。

Natsuko:そうですね。

Yuichi:では、ここで少しトリビアなんですけども、リスナーの皆さんの中に、「銀河鉄道999」というアニメを知っている方がいるかもしれないんですけども。このアニメはですね、実は宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」という作品をヒントにして、書かれたそうですよ。

Natsuko:あの、ブログに出てきましたけど、代表的な作品ですよね。中々素敵な話なので、これももし日本語を読むのに自信のある方だったら、是非読んでいただきたいと思います。

Yuichi:はい。

Natsuko:それでは、このレッスンはこの辺で。 **Yuichi:**じゃ、また。